



左官工事、タイル工事及び石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- R4 17 1. せつこうプaster塗りにおいて、塗り作業中及び作業後半日から1日は通風をなくし、凝結が十分に進行した後は適切な通風を与えた。 左官
- 2. コンクリート壁面へのモルタル塗りにおいて、下塗りの割合については容積比でセメント1に対し砂2.5とし、中塗り及び上塗りの割合については容積比でセメント1に対し砂3とした。 左官
- 3. 有機系接着剤によるタイル後張り工法において、屋外に使用する接着剤は、練り混ぜ不良に起因する事故を防止するため、JIS規格品の二液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系のもとした。 X タイル
- 4. 石工事における床用敷きモルタルの割合については、容積比でセメント1に対し砂4とした。 石

左官工事、タイル工事及び張り石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- R5 17 1. 鉄筋コンクリート造の建築物において、冬期に施工するアルミニウム合金製建具の枠まわりの充填モルタルには、初期凍害を防止するために、塩化カルシウム系の凍結防止剤を添加した。 X 左官
- 2. コンクリート壁下地に施すモルタル塗りにおいて、下塗りについては、先に塗布した吸水調整材が乾燥した後にいった。 左官
- 3. タイル後張り工法の密着張りにおいて、壁のタイルの張付けについては、上部から下部へとし、一段置きに数段張り付けた後、それらの間を埋めるようにタイルを張り付けた。 タイル
- 4. 外壁乾式工法による張り石工事において、一次ファスナーの取付け位置に合わせて、下地となるコンクリート躯体面に、あと施工アンカーを取り付けた。 石

- 標準：6mm 最大9mm 1回の塗厚(下塗り)
- 60分以内に使い切れる量
- 3mにつき7mm以下 平坦さの標準値

- 幅、深さ：8mm以上 シーリング材 目地：止水
- 外壁湿式工法
- 外壁乾式工法
- 石材の厚さ：25mm以上 石先付けプレキャストコンクリート工法
- シアコネクター：取付け代を考慮
- 内壁空積工法
- 清掃・磨き
- 全面に裏込めモルタルを充填
- 最下部の石裏に高さ100mm程度
- 伸縮調整目地：床面積30㎡程度ごと
- 容積比：セメント1に対し砂4 敷モルタル

左官工事、タイル工事及び石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H25 17 1. 左官工事における鉄筋コンクリート壁等のモルタル仕上げに用いるモルタルの割合において、上塗り・中塗りの強度については、モルタルが剥落しないように、下塗りの強度に比べて高くした。 X 左官
- 2. 張り石工事における床用敷きモルタルの割合については、容積比でセメント1に対し砂4とした。 石
- 3. 小口タイルのセメントモルタル張りタイル下地は、タイルが所定の精度に仕上がるように、2㎡につき4mm以内の面精度となるようにした。 タイル
- 4. タイル後張り工法において、外壁タイルの引張接着強度及び破壊状況の判定のための試験体の数は、100㎡以下ごとに1個以上、かつ、全面積で3個以上とした。 タイル

左官工事、タイル工事及び石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- R3 17 1. 床コンクリート直均し仕上げにおいて、ビニル床シートの下地となる床コンクリートの仕上りの平坦さの標準値については、特記がなかったため、1㎡につき40mm以下とした。 X 左官
- 2. セメントモルタルによるタイル後張り工法において、床タイル張り面の伸縮調整目地の位置については、特記がなかったため、縦・横ともに4m以内ごとに設けた。 タイル
- 3. セメントモルタルによるタイル後張り工法において、外壁タイルの引張接着強度を確認する試験体の個数については、100㎡ごと及びその端数につき1個以上とし、かつ、全体で3個以上とした。 タイル
- 4. 内壁空積工法による石工事において、幅木の裏には、全面に裏込めモルタルを充填した。 石

タイル先付けプレキャストコンクリート工法

- 引張接着強度 100㎡ごと
- 目地シーリング スペースを撤去
- 改良圧着張り 張付けモルタルの1回の塗付け面積の限度 2㎡以下
- 密着張り 張付けモルタルの1回の塗付け面積 60分以内に張り終える面積
- 伸縮調整目地 化粧目地の深さ タイルの厚さの1/2以下
- 伸縮調整目地の位置 縦・横ともに4m以内
- 有機系接着剤 下地面を十分に乾燥させる
- 超高压水洗浄法 材料 JIS規格品の二液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系 表面の清掃、目荒し等 吐出圧：150~200N/mm2

左官工事及びタイル張り工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H27 17 1. セメントモルタルによる磁器質タイル張りにおいて、コンクリート下地へ行う超高压水洗浄法については、コンクリートの表面の清掃、目荒し等を確実に行うため吐出圧を150~200N/mm2とした。 タイル
- 2. コンクリート外壁へのモルタル塗りの下塗りとして、ポリマーセメントを調合したモルタルを塗り付ける際の1回の塗り厚は、10~15mmとなるようにした。 X 左官
- 3. コンクリート下地へのモルタル塗りにおいて、モルタルの1回の練混ぜ量については、品質を確保するために、60分以内に使い切れる量とした。 左官
- 4. 縦壁ロック工法によるALCパネルへの磁器質タイル張りにおいて、ALCパネルの目違い精度については6mm以内とし、ALCパネルの伸縮目地とタイル面の伸縮調整目地を一致させた。 タイル

石張り工事、タイル工事及び左官工事に関する記述において、監理者が一般に行うものとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- R元 17 1. 石張り工事における外壁乾式工法において、止水のために石材間の目地をシーリング材で充填するに当たり、特記がなかったため、シーリング材の目地寸法が幅、深さともに5mm以上となっていることを確認した。 X 石
- 2. 床を石張りとする部分の面積が広く、特記がなかったため、床面積30㎡程度ごと及び石材と他の仕上材とが取り合う箇所に、伸縮調整目地が設けられていることを確認した。 石
- 3. セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り工事における壁タイルの密着張りにおいて、タイル剥離防止のため、タイルの化粧目地の深さが、タイルの厚さの1/2以下となっていることを確認した。 タイル
- 4. コンクリート外壁面へのタイル張りの下地モルタル塗りにおいて、タイルの伸縮調整目地に合わせて、幅10mm以上の伸縮調整目地が発泡合成樹脂板で設けられていることを確認した。 タイル 左官

左官工事、石張り工事及びタイル工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H30 17 1. 型枠に塗装合板を用いたコンクリート壁下地へのモルタル塗りについては、下地とモルタルとの有効な付着性能を得るために、下地に高压水洗処理を施すとともに、ポリマーセメントペーストを塗布し、乾燥しないうちに下塗りを行った。 左官
- 2. ビニル床シートを用いた床仕上げ工事における下地については、床コンクリートの直均し仕上げとするに当たり、コンクリートの仕上りの平坦さの標準値を、特記がなかったため、3㎡につき7mm以下とした。 左官
- 3. 石張り工事における内壁空積工法において、下地ごしらえを「あと施工アンカー・横筋流し工法」で行うに当たり、あと施工アンカーに、おねじ形の締込み式アンカーを使用した。 石
- 4. セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り工事において、屋内の吹抜け部分の壁タイル張り仕上げ面については、モルタルが硬化した後、工事施工者の自主検査で、打診用ハンマーにより全面の1/2程度について打診を行っていることを確認した。 X タイル

左官工事、石張り工事及びタイル工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H29 17 1. コンクリート壁下地へのモルタル塗りにおいて、下塗りは、吸水調整材の乾燥後にいった。 左官
- 2. コンクリート床の石張り工事において、敷モルタルは、容積比でセメント1に対し砂4に少量の水を加え、手で握って形が崩れない程度の硬練りモルタルとした。 石
- 3. 接着剤による陶磁器質タイル後張り工法において、屋外に使用する有機系接着剤は、JIS規格品の二液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系のもとした。 タイル
- 4. セメントモルタルによるタイル後張り工法において、床タイル張り面の伸縮調整目地の位置については、特記がなかったため、縦・横ともに5mごとに設けた。 X タイル

張り石工事及びタイル張り工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H28 17 1. 張り石工事における外壁乾式工法において、石材取付け用ファスナーの面外調整機構を考慮して、下地となるコンクリート部材の位置の許容差を、±10mmとした。 石
- 2. 張り石工事における石先付けプレキャストコンクリート工法において、シアコネクターの取付け代を考慮して、コンクリート部材に先付けされる石材の厚さを、20mmとした。 X 石
- 3. セメントモルタルによるタイル後張り工法における改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回の塗付け面積の限度は、2㎡以下とし、かつ、60分以内に張り終える面積とした。 タイル
- 4. セメントモルタルによるタイル後張り工法において、外壁タイルの引張接着強度を確認する試験体の数は、100㎡ごと及びその端数につき1個以上とし、かつ、全体で3個以上とした。 タイル

タイル工事、石工事及び左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- H26 17 1. セメントモルタルによる磁器質タイル後張り工法において、タイルの剥離防止のために、タイル目地の深さがタイル厚さの1/2以下になるまで、目地モルタルを充填した。 タイル
- 2. 外壁乾式工法による張り石工事において、石材の最大寸法については、安全性、施工性を考慮して、幅1,000mm、高さ800mmとした。 石
- 3. コンクリート壁下地のモルタル塗りにおいて、骨材に用いる砂の最大寸法は、塗り厚に支障のない限り大きいものとし、塗り厚の2/3とした。 X 左官
- 4. 内壁空積工法による張り石工事において、据付けの際に使用したくさびを取り外した後、幅木のない部位には、最下部の石裏に高さ100mm程度まで裏込めモルタルを充填した。 石